



初・小学校での出前講座 ～「北九州の水道」と「プノンペンのキセキ」～

作成：上下水道局海外事業課 発行日：令和2年12月10日



上下水道局では、海外事業の展開を皆さんに知ってもらうために、市内のあちこちで**出前講座**を積極的に行っています。**過去7年間の累計で、135回、約8,000名**の方にお話をしてきました。

海外での活動は専門的な事柄も多いことから、これまで、企業団体や高校・大学向けでの出前講座がほとんどでしたが、今回、**初めての小学生を対象とした出前講座**を実施しました。

もしも世界が100人の村だったら

もしも世界が100人の村だったら

- ※34人の家にはトイレがない。
- ※25人の家には電気がない。
- ※28人はきれいで安全な水を飲めていない。
- ※28人のうち20人は下水などによごされた水を飲んでいる。
- ※28人のうち10人は飲み水すらない。



カンボジア プルサット州の一軒の家

小学校で紹介した資料の一部

今年9月4日、西小倉小学校で、海外事業課の職員2名が、小学6年生130名の皆さんに、「総合学習」の授業の一環として上下水道局の海外での取組についてお話をしました。

初の小学生向けの授業ということで、説明する資料も、現地の写真をたくさん盛り込む、難しい漢字をなるべく使わないなどの工夫をして、授業に臨みました。

そのうえで、「もしも世界が100人の村だったら」という例え話をし、世界の水環境を説明したり、職員が現地の方から聞いた昔のカンボジアの話を交えて「**プノンペンの奇跡**」の紹介をしました。

皆さんからの評判は幸いにも大変好評で、特に「**世界の水をバスタブで例えると、飲める水は大さじ1杯程度**」、エク・ソンチャン前プノンペン水道公社総裁の「**3H: Head/知識・経験、Heart/リーダーシップ、Hand/チャレンジ・アクション**」というメッセージが心に残ったようでした。

授業の後、いただいた感想文の中で、**たくさんの質問をもらいました**。例えば、「**なぜ水道の仕事をしようと思ったのですか？**」、「**日本とカンボジアで、水道のしくみは違いますか？**」といったものです。一つずつ、丁寧にお返事しました。上下水道のことにしっかりと関心を持ってもらえたと嬉しく感じています。

今回の出前講座で得たノウハウをもとに、今後も市民の皆さんに親しんでもらえる情報発信に努めていきます。



西小倉小学校の6年生に説明する海外事業課職員
首に巻いているのは、カンボジアの伝統的な織物「クロマー」



後日、皆さんから
たくさんの感想文を
いただきました。

感想文の一例



報告者：上下水道局 海外事業課 主査 大島 佳希

小学6年生は元気いっぱい、真剣に話を聞いていたのが印象的でした。コロナ感染対策のため、授業は2クラスごとに分けて行い、教卓の周りにはいくつかの換気用のファンが置いていました。6年生の皆さんには、残りの小学校生活でたくさんの思い出を作ってほしいと思います。



教卓の周りには、いくつかの換気用のファン